

## 一人ひとりの持つ潜在能力を引き伸ばすには

開倫塾

塾長 林 明夫

1. おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。

今週の初め、月曜日と火曜日には台風 19 号が日本列島を横断しました。栃木県内はもちろん、北関東の多くの都市を通過しましたので、たくさんの皆さんが大変な思いをなさったのではないかと思います。そのため、14 日の火曜日は、始業時間を遅らせた学校や休校にした学校もありました。大変な 1 週間の始まりでしたが、天気も持ち直してよかったなと思います。台風が過ぎ去ったあとに遠くに目を遣ると、「栃木県にはこんなにたくさんの山があるのか」というほど多くの山々がよく見えました。一枚一枚とまでは言えませんが、木々の葉まで見えるほど晴れ渡り、驚きました。

2. さて、今日の「開倫塾の時間」では、一人ひとりが持っている潜在能力をどのようにして引き伸ばしたらよいかについてお話をさせていただきます。宇都宮大学大学院工学研究科と作新大学大学院と白鷗大学大学院の 3 つが提携して、「とちぎMOTプログラム」をスタートさせました。これは主に社会人向けの Management Of Technology (マネージメント オブ テクノロジー) プログラムです。私は、その上級コース (Advance course、アドバンス・コース) の executive program (イグゼクティブ・プログラム) のコーディネーターをさせていただきます。

3. 10 月 15 日には、デュポンの社長を長く務められ、現在は名誉会長をされている天羽稔さんを先生としてお招きし、「グローバル時代の人材育成、グローバルリーダーシップ、イノベーションとは何か」というお話をお聞きしました。非常に充実したお話でしたので、それに関連したお話をさせていただきます。

4. 天羽さんは、最後に「一番大切なのはグローバルリーダーである。会社の社長や幹部は、グローバルリーダーになるような人を育てる必要がある。どのように育てるかという、大切なのは一人ひとりが持つ潜在能力を引き伸ばすことである」というお話をされました。これは、私にとって非常に有り難いお話でした。また、30 名ほどの受講者がいらっしやったのですが、その方々も共感なさっているようでした。やはり、社員や職員一人ひとりの潜在能力をどのように伸ばすことができるかによって、会社の運命や様々な団体の運命は決まってくると思います。

5. では、誰の潜在能力を引き伸ばすのがよいかですが、一般的には、お子さんをお持ちの方は自分の子どもです。お孫さんをお持ちの方は、自分の孫です。つまり、身内の方の潜在能力を引き伸ばすことが一番大事です。また、職場などで部下を持つ立場にある方は、自分の可愛い部下の方の潜在能力です。学校の先生やスポーツのインストラクターなど、先生と呼ばれる方は、自分の可愛い

教え子の方の潜在能力を引き伸ばしていただきたいと思います。そして、最後には自分自身の潜在能力を自分の力で引き伸ばすことが大事だと思います。このように、潜在能力を引き伸ばす対象は自分のお子さん・お孫さん・部下の方・教え子の方、最後は自分自身になると思います。

6. 次の話として、どのようにして潜在能力を引き伸ばすかということがあります。それには、対象者であるお子さん・お孫さん・部下の方・教え子の方や自分自身に、一人ひとりに合った小さな課題を少しずつ与え、ゆっくりでもよいから成功体験を積み重ねさせることです。つまり、スモールステップの積み重ねが大事であるということです。これは天羽さんに教えていただいたのですが、私も同じ考えです。
7. その次には、どのように評価するのかということがあります。対象者である皆さんは、与えられた課題を一所懸命にこなそうと思えます。それをどのように評価すればよいかというと、1つ1つの課題に取り組んでいるプロセス・手順を労(ねぎら)うのがよいというのが私の考えです。褒めてもよいのですが、それよりも「よくがんばっているね」「よくがんばってえらいね」と労うほうがよいと思います。
8. 例えば、頻繁に遅刻をしていた人が一所懸命にがんばってしなくなったときには、「時間に遅れずに到着するようになったね。よくがんばっているね」と労(いたわ)る。また、家の手伝いをしなかった子が家やいろいろな所でお手伝いをするようになったら、「お手伝いをするようになってがんばっているね」と労る。このようにして潜在能力を引き出し、伸ばしていただきたいと思えます。
9. また、部屋の片付けがなかなかできない子がいます。その子が片付けをするようになったときは、「いらぬ物を処分できるようになってえらいね」「きれいにそうじするようになってえらいね」「整頓ができるようになって素晴らしいね」「人から言われないうちに、自分でできるようになって大したものだ」のように言葉を少しずつ変えながら労っていただきたいと思えます。そうすると、一人ひとりが無理なく潜在能力を引き伸ばすことができるのではないかと思います。
10. ところで、お亡くなりになられた藤井産業の藤井会長が私に会うといつも言ってくださった言葉は、「林さん、一所懸命にやっているようだね」でした。また、宇都宮市で会うと、「足利市から来てもらって、がんばっているね」と言い、会うたびにいつも私のことを労ってくださいました。非常に有り難く、心より感謝しております。
11. 一人ひとりに対して適切な課題を少しずつ与えることで、各々の潜在能力を引き伸ばすことができます。ですから、まずは対象者、つまり目を掛ける人を絞り込んで小さいけれども適切な課題を少しずつ与える。そして、がんばっているプロセスを労る。これが潜在能力を引き伸ばす一つの方法であると思えます。これについて、放送をお聴きの皆様はどのようにお考えでしょうか。皆様もぜひ一人ひとりの方が持つ潜在能力を引き伸ばす取り組みをしていただきたいと思えます。また、潜在能力を引き伸ばす取り組みのできる企業は、素晴らしい企業だと思えます。それができる組織も素晴らしいと思えます。そのような企業文化・組織文化を皆様のお力で作っていただきたいと思えます。